

世田谷区議会 一人会派「無党派市民」通信
2007年No.2 3月15日

155-0033 世田谷区代田4-24-15-102
TEL/FAX 03-5355-1283
Url: www.kinos.jp



みどりの先進国を 世田谷から

世田谷区議会議員 一人会派「無党派市民」

やす ゆ き
木下 泰之

の活動報告

●大規模再開発に反対！

——歩行者優先、修復型のまちづくりを！

●安全・安心はアスファルトからは生まれない

——ヤラセは論外、住民参加や審議会を形骸化するな！

●共存・共生の社会を！

——子どもの権利とユニバーサルデザインの実現を求めて

●エコロジカル・ニューディール

——環境立国こそ日本の生きる道

大規模再開発に反対！

——歩行者優先、修復型のまちづくりを！

1) 下北沢の再開発と市民運動

現在、下北沢地域は、高層再開発をねらった大型道路整備が、小田急線の連続立体交差事業と一体となって行なわれようとしています。下北沢は歩行者優先で、住宅街に囲まれているため魅力ある街が形成されてきていますが、建物が高層化し、車が過度に流入するようになれば、これらの良好な環境が破壊されてしまうことは明かです。

これに対して、地元住民らを中心に立ち上がった市民グループ「Save the 下北沢」は、再開発計画の見直しを求めて街頭署名や音楽パレードなどを企画し、また「まれシモキタ!行政訴訟」を提起して、魅力ある路地の街と文化を守ろうと闘っています。

下北沢の問題は、歴史的に形成されてきた都市や文化の



市民が企画したシンポジウム「シモキタらしさを守り育てる」。
再開発計画への代替案を提案した。



あり方を問う課題として、全国の都市計画問題のなかでも最先端の課題です。

2) 世田谷区全域を襲う再開発

用賀・二子玉川の超高層再開発と、これに連動した規制緩和は、多摩川風致地区を形骸化させてきました。千歳烏山の超高層マンションは地域の高層化と、地下の遊水の破壊を暗示しています。

経堂の高層再開発計画も未だ消えていません。成城や喜多見は、外郭環状線や道路新設・拡幅で、街やみどり豊かな歴史資産が脅かされています。梅ヶ丘、豪徳寺、区役所周辺などでも、高層化が進められようとしています。

さらに京王本線でも連続立体交差事業が進められようとしており、桜上水団地の高層化や、下高井戸の商店街の破壊も始まっています。再開発の圧力を低減し、良好な環境をつくるためには、「鉄道は地下に、地上は緑道に」するべきです。

安全・安心はアスファルトからは生まれない

——ヤラセは論外、住民参加や審議会を形骸化するな！

1) 「防災のために道路が必要」は間違っている

熊本哲之区長は、「安全・安心」は道路づくりからとして、道路を2倍の速さで作るという公約を掲げて登場しました。

しかし、防災は、幹線道路の整備で片がつくものではありません。むしろ、道路の過剰な供給は街に車をあふれさせ災害時の障害となります。さらに、大規模道路は高層ビルの建設を誘導しますが、高層ビルこそ防災時の危険をもたらします。

安全で安心な生活環境は、アスファルトからは生まれません。重要なことは、一極集中の解決など都市構造の大転換に本気で取り組むことであり、一方で、明日来るかもしれない災害の危機に対しては、地域に密着し、ソフト面やマンパワーのレベルから地道に改善することです。

2) 区政に民主主義を!

下北沢の地区計画に関して、住民からの意見書募集の際に、区の職員が計画賛成を誘導する雛形を町会や商店

会に配布していたというヤラセが発覚し、メディアでも取り上げられました。さらに、地域住民の64%が計画に反対していることも明らかになりました。

にもかかわらず、都市計画審議会では同地区計画が強行採決されたのです。不正があっても強行採決されるという非民主的な手続きには、開いた口がふさがりません。審議会の形骸化、役人主導の「住民参加」はもうたくさんです。

また、談合などの土木利権や、福祉利権にもメスを入れる必要があります。「区内業者育成」の名のもとに随意契約では癒着が生じており、公金の流用・裏金の存在が懸念されます。

世田谷区の土木関係の競争入札の現状は、落札率の多くが90%を超えており、なかには98%、99%というものもかなりあります。これは談合そのものです。老健施設についても、施設建設や運営業者の選定をめぐる不明瞭な審査過程が取り沙汰されています。

木下は、これらを徹底追及すると同時に、構造的な転換を求め、議会質問などを通して巨悪を許さず闘います。

共生・共存の社会を！

——子どもの権利とユニバーサルデザインの真の実現を求めて

1) 子どもの育ちが未来を豊かにする

君が代・日の丸の押付け問題や、教育基本法の改悪など、教育問題において国家主義への復古現象が見られますが、戦後日本の一部の負の側面だけを捉えて、昔に帰ればすべて問題が解決されるかのように考えるのは誤りです。

熊本区長の、幼稚園・保育園の民営化推進に対しては、木下は反対の立場から発言し、一定の歯止めをかけてきました。民営化して公が責任放棄するのではなく、公教育の果たす役割を考え、現状をより良く変えていくための方策を考えるべきです。

日本の教育行政は、日本国憲法と相通ずる国際条約「子どもの権利条約」を実現し、子どもたちの豊かな成長のためのシステム構築を早急にすべきです。



梅ヶ丘のケヤキをまもろう！と子どもたちが描いた。

2) ユニバーサルデザインの根づいた共生の社会を！

前回の選挙戦の際に私が提起したユニバーサルデザインは、今回の予算議会ですべての名称に掲げる条例が可決される見込みです。「すべての人が人生のある時点で何らかの障害をもつ」を起点とするこの概念は、自ら障害者であったロナルド・メイスが提唱したもので、福祉概念を超えて公民

権的概念とされています。条例制定をきっかけに、都市づくり、施設づくりに際してはすべての人々の参加権を保障するべきです。

この概念の下では、障害者もお年寄りも健常者も、同等の権利者として結びつくことができます。少数者の解放が、実は多数者の解放でもあるという共生の思想を持っています。

エコロジカル・ニューディール

——環境立国こそ日本の生きる道

1) 日本をみどりの先進国に

1997年の京都議定書は、これからの世界の経済秩序が環境を無視しては成り立たないことを宣言しています。車社会からのテイクオフは、取り組むべき緊急課題です。

「土建・官僚国家をみどりの先進国に」と私の主張は、国家戦略として位置づけています。区議会議員であっても、社会全体を見通す目標なくして、責任ある行動はできません。戦後日本の行き詰まりは、国家の喪失ではなく、国際的な役割を忘れたことにあります。

最大の地球環境破壊であり資源の浪費でもある戦争をやめさせ、環境と調和した産業活動のために尽力することが、「国際社会のなかで名誉ある地位を占める」ことでもあります。



道路計画予定地になっている世田谷教会で行なわれたキャンドル・ナイト。

2) サステイナブルな社会、環境立国日本の実現を目指して

ゴミ問題については、最近サーマルリサイクルと称して、プラスチックゴミまで燃やすような政策が採られそうになっていますが、これには反対です。生産者責任を徹底し、ごみ処理を税金で行なわないようにしなければ、根本的には解決しません。ゴミ問題の先進国ドイツのやり方をさらに徹底して、全ての工業製品は、処理方法をあらかじめ組み込んだ形で生

産計画を立てるようにする、新たな産業革命が必要です。

少資源国日本、技術立国日本の生き残る道はここにあります。私は、土建産業から環境産業への転換を目指す「エコロジカル・ニューディール」を提唱します。サステイナブル（持続可能）な社会を目指して、地球規模の環境問題にいち早く対応し「環境産業国家」へと転換することこそ、これからの日本に求められている道です。

木下泰之さんはこんな人です

羽根木公園の近くに暮らす木下さんは、熊谷高校、伊那北高校時代に山岳部で鍛えた体力で、区議会議員と市民運動の双方をこなすパワフルな人です。早大一文哲学科時代から、若い情熱を環境問題に注いできました。卒業後も「六価クロムがん訴訟」の事務局として活躍し、裁判勝利後、中村哲参議院議員（元法政大総長）に手腕を買われて第一秘書になりました。91年、小田急線の高架反対・地下化推進を訴え、区議選に初挑戦するも惜敗（43票差で次点）。鈴木喜久子代議士の秘書を経て、95年の区議選で初当選。96年には社民党から独立し、一人会派「無党派市民」を旗揚げ。現在3期目の53歳。

「小田急線高架と街づくりを見直す会」の事務局次長としても東奔西走。在来線の鉄道騒音の違法を政府に認定させ、成城駅と下北沢地域の地下化を実現。2001年には東京地裁で高架事業の違法判決を勝ち取りました。高裁、最高裁小法廷はこれを葬りましたが、最高裁大法廷判決では、「原告適格」の範囲を広げ、地権者だけでなく市民が広く裁判を起こせる権利を獲得しました。

下北沢地域の都市再開発計画に対して06年に提訴した「まもれシモキタ！行政訴訟」はこの成果のうえに可能となったもので、木下さんも原告の一人として関わっています。また再開発計画の見直しを求める市民グループ「Save the 下北沢」にも、立ち上げから関わり活動しています。



世田谷区民合唱団創立まもない頃。定期演奏会にて第九も歌う大の音楽好き。響く声である。カンツォーネ、シャンソン、ブルース等もプロ級との定評あり。



浅野史郎さん（前宮城県知事）に、下北沢の再開発問題について説明。

自主幼稚園「ひろば」の運動会（羽根木公園にて）。

橋本侑生子さん

（梅ヶ丘駅前けやきを守る会 声楽家）

公共事業の見直しを緑の政策への転換と位置づけ、裁判勝利を得た小田急線地下化推進運動に敬意を払っています。この運動を支えてきた木下泰之さんにエールを送り、推薦します。

下平憲治さん（「Save the 下北沢」 共同代表）

今でこそ、「Save the 下北沢」や「浅野史郎さんのハートに火をつける会」などの活発な市民運動の旗振りをしている僕も木下やすゆきに出会うまでは、ごく普通の政治に無関心な青年だった。彼のたいまつのように力強く燃える思いは人を引き付ける。そして併せ持つ誠実さに誰もがほろっとする。そんな木下を、ずっと応援していきたい。

榎原ひとみさん（主婦・会社員）

国は都はそして区はいったい誰の為のものですか？私たち一般市民は何の為に税金を納めているのですか？少なくとも私は自分の住んでいるこの町に大きな道路を作る為に納めているではありません。この自然の多い緑あふれる環境で子供を育てたいからです。木下さんは一貫して地域に根差した住民側からの意見を拾い上げ訴えつづけてくれています。今一番世田谷区に必要なそして私たち市民に必要な方だと思っています。是非私たちの気持ちを言葉で代弁してもらいましょう。

大木雄高さん（ジャズバー・レディ・ジェーン・オーナー／下北沢商業者協議会世話人代表）

住民をないがしろにした無謀な下北沢の地区開発及び道路建設の土建行政に対して、甘言虚言の多い政治の中であって、箴言直言をもって向かう言動一致の人は木下泰之しかない。彼が立脚点を揺るがしにしないのは（無党派だから）ではなく、そのために（断乎無党派）を通すことを真情としているからなのだ。

山崎千鶴子さん（ロック・バー「MOTHER」オーナー）

木下さんの周りには嘘を言わない人たちがいます。木下さんが嘘を言わないからです。自分のことだけを考えない人たちがいます。木下さんがそうだからです。木下さんは私たちと一緒に考えてくれます。そして行動してくれます。「信頼する」とは、応援することです。私は木下さんを応援します！

馬場麻由美さん（自主ようちえん ひろば）

我家は補助54号線計画にかかっているため実施されると住むところなくなってしまう。我家を守るためにも下北を守るためにも、ぜひ木下さんに頑張っていただきたいと思います。羽根木公園でのびのび子育てをしているのですが、住みよい安心して暮らせる町づくりには木下さんなくては実現できないと思います。今までも自分の考えを推進するために無党派で戦ってきた木下さんを家族で応援します！

応援します

斉藤駿さん

（小田急訴訟・下北沢訴訟 両弁護団長）

世田谷区は役人天国・土建国家の末端であぐらをかき、安逸をむさぼっている。顔は見えず、心ある市民の声は届かない。かれこれ20年以上になる。巨大な小田急高架事業から、路地裏のミニ開発に至るまで区の荒廃は進み、住宅地としての面影は大きく揺らいでいる。独特の文化を形成してきた下北沢のような商業地も同様である。世田谷区だけではない。東京都、いや日本全体が環境の21世紀に反する逆流に流されかねない危機を孕んでいる。木下君は、区議会議員として、逆流に異議をとねえ続けてきた。今回、4回目の挑戦である。市民の声が拡がり、大きくなるためにも、圧勝を期待している。

原田学さん（下北沢訴訟 原告代表）

無党派で世田谷区議を三期務める木下泰之さんは私たち市民の味方です。土建行政に反対し生活者の視点で闘い続ける信念の人です。小田急高架事業に反対して下北沢地下化を実現し、今また莫大な税金を使って街を破壊し環境を汚染する、必要のない巨大道路（補助54号線）事業に反対しています。私は住宅地としての世田谷を守り、緑を守る木下さんを熱く支持し応援します。

*私も木下さんを応援します（敬称略・順不同）

石本伸晃（下北沢訴訟 弁護団）／志田歩（シンガソング音楽ライター）／金子秀人（国分寺産線の自然を守る会）／瀬川和子（主婦）／小林千香子（木下やすゆきをほっとかない会 会長）／金子賢三（「セイブ・ザ・下北沢」共同代表 建築士）／高品齊（経営コンサルタント）／笹川史郎（下北沢駅前食品市場内「酒・ラーメンしろう」主人）／保谷野初子（ジャーナリスト）／佐藤泰雄（元代沢小PTA会長）／小林みのり（編集者）／今井兼介（建築家）／天野桂子（ダイニング「グー」経営・料理教室主宰）／高木博美（ギャラリー喫茶「ソーエー」店主）／小田島美重子（ビビの会）／人見香里（自主幼稚園「ひろば」）／星野美典（羽根木プレーパークの会 副代表）／細矢理恵（主婦）／中本信幸（「小田急高架と街づくりを見直す会」会長 神奈川大名養教授）／加藤栄一（早大名養教授）／小林正美（明大建築学科教授）／広田輝幸（日大教育学科教授）／小林正彦（元東大副学長）／福川裕一（千葉大教授・都市計画）／王子田克樹（サイエントジャパン（株）副社長）／加藤美枝（仙台北百合女子大教授・社会福祉学）／三枝龍次郎（「まもれシモキタ！行政訴訟の会」事務局長）／峰岸壮一（桐朋音大名養教授・フルート奏者）／風間正一（小田急高架と街づくりを見直す会事務局長）／矢崎と志子（浅野史郎さんのハートに火をつける会代表）／風間幸雄（給田墓地建設に反対する地域住民の会会長）／伊藤まき（NPO法人 太陽光発電所ネットワーク）

木下泰之をほっとかない会 （木下やすゆき後援会） 下北沢事務所開設のお知らせ

後援会事務所が開設されました。4月23日（月）までオープンしています。是非、お立ち寄りください

〒155-0031 世田谷区北沢2-26-25
電話・ファックス 03-5465-1818

年会費（2000円）と政治献金はこちらへ
郵便振替口座00140-0-83661

